



WWF ジャパン
(公財)世界自然保護基金ジャパン
〒108-0073
東京都港区三田 1 丁目 4 番 28 号
三田国際ビル 3F

Tel: 03-3769-1711
Fax: 03-3769-1717
www.wwf.or.jp

農林水産大臣政務官
山本 啓介 様

漁業系プラスチックごみ（ゴーストギア）の 対策に係る要望書

令和 8（2026）年 7 月 3 日
公益財団法人世界自然保護基金ジャパン
事務局長 東梅貞義

平素より、農林水産行政にご尽力頂き深く敬意を表します。

公益財団法人世界自然保護基金（WWF）ジャパンは、人と自然が調和して生きられる未来をめざし様々な環境保全活動を行っています。WWF ジャパンでは、海洋プラスチック汚染の低減にむけた活動も進めており、特に、漁網・化繊ロープ、仕掛け漁具、釣り糸など、漁業由来の海洋プラスチックごみ「ゴーストギア」に着目しております。漁業者の手を離れた漁具が、漁獲機能を保持したまま長期的に海中を漂流するゴーストギアは、水産有用生物の死傷、サンゴなどの海洋生態系への悪影響、さらに漁船や定期船等の航行阻害や海難事故を引き起こすだけでなく、マイクロプラスチック汚染増大の恐れもあります。

環境省が実施している海岸漂着ごみ組成調査結果では、漁具全般が上位に入っており、それら海岸近くの海中にも、多くのゴーストギアが存在し、周辺環境への悪影響が推察されます。しかし、海中や海底でのごみについては、漂流ごみ調査や底引き網での調査が行われているものの、海岸ほど全国的な調査は行われておりません。

このため、WWF ジャパンでは、日本沿岸の海中におけるゴーストギアの存在やその悪影響を調べる目的で潜水調査を実施しました。本潜水調査は、2023 年から 2026 年にかけて離島を含む日本国内 7 地点において現地漁業者とダイバーと協働で実施しました。発見されたゴーストギアは地元の漁業由来の漁具に加え、海外または地区外由来と思われる漁具が存在しました。ゴーストギアによる悪影響は、生物の死傷、サンゴの損壊、マイクロプラスチック化した漁具、漁業や観光業への悪影響など、環境面だけでなく水産業への被害も確認されました。

漁業活動からの流出が避けられないゴーストギアですが、高価で大事な漁具を意図的に投棄または放棄する漁業者はほとんどいません。しかし、自然を相手にする以上、どんなに管理された漁業でも天候の急変や操業中の事故、または管理不足、危険回避などで意図せず流出することがあります。漂流するゴーストギアを回収し、被害拡大を防止する仕組みを構築することは、漁場や水産資源の保全、安全な船舶航行などにつながります。

ゴーストギアの発生を予防し、その悪影響を軽減し、豊かな漁場の回復および貴重な水産資源を保全するためには、個々の漁業者による漁具管理だけでなく、より組織的な対策が必要であると考えます。

農林水産省においては、海洋プラスチックごみ対策アクションプランに明記されたように、環境省と連携して、漁業者に対する陸域回収、分別・リサイクル等の周知と適正実施がはかれるよう、下記の通り要望します。

記

- 要望 1. ゴーストギア対策の一方策として、人的・設備的な制約がある離島等の地域においても実施可能な体制を構築するため、漁業者が海中・海底の逸失漁具を発見した場合の、通報から回収・処分までの一連の仕組みを関係省庁及び地方自治体、民間事業者等と連携してモデル事業を実施すること。
- 要望 2. ゴーストギアを含む漁具の廃棄物管理の徹底に関する現状を把握するために、「漁業系廃棄物処理ガイドライン」および「漁業系廃棄物計画的処理推進指針」の実施状況に関する現状調査を、環境省と連携して実施すること。一例として、漁協・漁連が主導する集団的かつ計画的な処理の実施状況や普及への課題等を明らかにすること。
- 要望 3. 海洋流出もしくは不適切に廃棄される漁具の量を把握するため、ゴーストギア対策の効果検証に関わる基礎的なデータともなる日本国内で生産（および日本に輸入）・流通・使用・廃棄される漁具のライフサイクルフローを把握すること。

以上

ぜひ前向きなご検討を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。